

製品名: Bcl-6 (リン酸化 Ser333) ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab04309

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	79kDa

抗原情報

遺伝子名	BCL6 BCL6; BCL5; LAZ3; ZBTB27; ZNF51; B-cell lymphoma 6 protein; BCL-6; B-cell lymphoma 5 protein; BCL-5; Protein LAZ-3; Zinc finger and BTB domain-containing protein 27; Zinc finger protein 51
別名	
遺伝子 ID	604.0
SwissProt ID	P41182
免疫原	抗血清は、Ser333 のリン酸化部位周辺のヒト Bcl-6 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 299-348

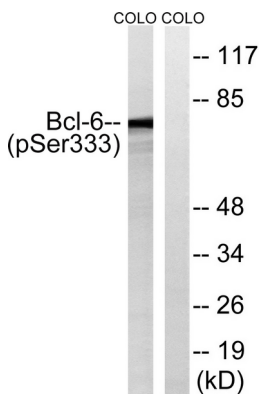
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質はジンクフィンガー転写因子であり、N末端に POZ ドメインを有する。このタンパク質は配列特異的な転写抑制因子として作用し、B細胞の STAT 依存性 IL-4 応答の転写を調節することが示されている。このタンパク質は、転写コリプレッサーとして機能する様々な POZ 含有タンパク質と相互作用することができる。この遺伝子は、びまん性大細胞リンパ腫 (DLCL) において頻繁に転座および高頻度変異を起こしていることが分かっており、DLCL の病態に関与している可能性がある。この遺伝子には、異なるタンパク質アイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが見つかっている。[RefSeq 提供、2015 年 8 月]疾患: BCL6 に関連する染色体異常は、ある種の B 細胞白血病の原因となる可能性がある。POU2AF1/OBF1 との転座 t(3;11)(q27;q23)。疾患: BCL6 に関連する染色体異常は、リンパ腫の原因となる可能性がある。ARHH/TTF との転座 t(3;4)(q27;p11)。疾患: BCL6 に関連する染色体異常は、B 細胞性非ホジキンリンパ腫の原因となる可能性がある。転座 t(3;14)(q27;q32); 免疫グロブリン遺伝子領域との転座 t(3;22)(q27;q11)。機能: 胚中心形成および抗体親和性成熟に必要な転写抑制因子。リンパ腫形成において重要な役割を果たしていると考えられる。誘導: 樹状細胞の成熟過程において、LPS、CD40L、ゼイモサンなどの選択的刺激によってダウンレギュレーションされる。PTM: 抗原受容体活性化に反応して MAPK1 によってリン酸化される。リン酸化はユビキチン/プロテアソーム経路による分解を誘導する。類似性: 1 つの BTB (POZ) ドメインを含む。類似性: 6 つの C2H2 型ジンクフィンガーを含む。サブユニット: ZBTB7 および BCL6B と相互作用する (類似性による)。HDAC9 の触媒ドメインと相互作用する。組織特異性: 胚中心 T 細胞および B 細胞、ならびに初代培養未熟樹状細胞で発現する。

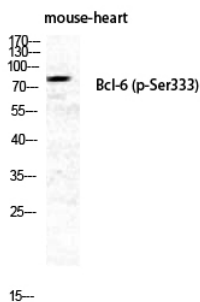
研究分野

B 細胞抗原

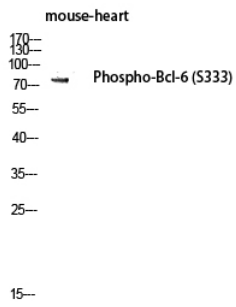
画像データ



インスリン 0.01U/ml を 15 分間処理した COLO205 細胞のライセートを、Bcl-6 (リン酸化 Ser333) 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンにはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



1: 1000 に希釈したリン酸化 Bcl-6 (S333) ポリクローナル抗体を用いたマウス心臓細胞のウェスタンブロット解析。



リン酸化 Bcl-6 (S333) 抗体を用いたマウス心臓溶解のウェスタンブロット解析。抗体は 1:1000 に希釈した。